



《不詳(手)》制作年不詳

宮本三郎  
絵画、  
その制作と  
プロセス

2020 4 / 1  
↓  
10 / 4

宮本三郎 絵画、その制作とプロセス  
Saburo Miyamoto: Process and Practices

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館 Miyamoto Saburo Memorial Museum

展覧会名 宮本三郎 絵画、その制作とプロセス  
会 期 2020年4月1日[水]～10月4日[日]  
会 場 世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館 Miyamoto Saburo Memorial Museum  
〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 5-38-13 TEL:03-5483-3836 www.miyamotosaburo-annex.jp  
主 催 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷美術館  
開館時間 10時～18時(最終入館は17時30分まで)  
休 館 日 毎週月曜日(ただし、5月4日[月・祝]、8月10日[月・祝]、9月21日[月・祝]は開館、  
5月7日[木]、8月11日[火]、9月23日[水]は休館)  
観 覧 料 一般200円(160円)、大高生150円(120円)、65歳以上、中小生100円(80円)、  
障害者100円(80円)ただし小・中・高・大学生の障害者は無料、介助者(当該障害者1名につき1名)  
は無料 ※( )内は20名以上の団体料金 ※小・中学生は土、日、祝・休日、夏休み期間は無料

## ◆ 絵画、その制作とプロセス

美術館の展示室で、ポスターなどの印刷物で、もしくは画集や書物のページを開いて出会う、完成された絵画作品たち。画家がキャンバスを前に、さてここまでと筆を置くその瞬間に至るまで、どれだけの時と力が費やされたことでしょうか。ひらめき、ときに逡巡し、おそらくは喜び、また苦しみながらも、制作を進めてゆく――創作をめぐるたたかいたもいえる試行錯誤が、その過程には存在していたはずで

す。昭和の洋画壇で活躍した宮本三郎（1905-1974）は、作品を描くに至るまで、丹念にデッサンを重ねることを常としていました。また油彩画でも、自らの課題を繰り返して試行するように、同主題でモデルのポーズや構図を変えるなどして、制作をつづけました。本展は、そうした制作の「過程」に注目して、宮本三郎の絵画を改めて見つめなおそうとするものです。

### ◆ 本展のみどころ

- ・完成された油彩作品と、そこにいたるまでの下絵やデッサンなどを、じっくり比較してご覧頂けます。
- ・1964年の東京オリンピック開催時、旧・国立競技場モザイク壁画のために描かれた原画制作に関連する、スケッチ類もご紹介いたします。

※原画下絵は世田谷美術館本館の収蔵品展にて展示予定【会期：4月5日（土）～6月14日（日）】

### ◆ 担当学芸員によるギャラリートーク

日時 2020年5月16日[土] 11:00～、2020年9月5日[土] 11:00～

場所 当館2階展示室（入館料のみでどなたでもご参加いただけます）

参加費 無料（観覧料別途）※事前申込不要/20分程度（当日会場にお越しください）

◆ 各画像は広報用として提供しております。ご希望の際は広報担当までお問合せください。 ※（ ）は題不詳につき仮題



《農夫》1957年



《農夫》のためのデッサン 1957年



《ヴィーナスの粧い》  
1971年



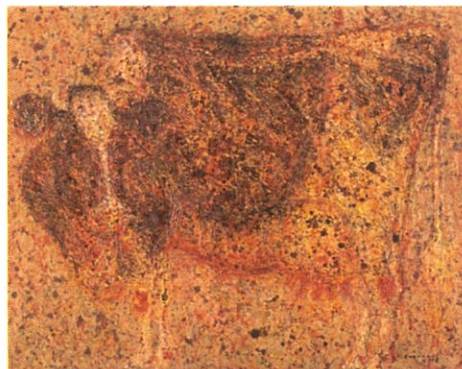
《死の家族》1950年



《死の家族》のためのデッサン 1950年頃



《不詳(手)》制作年不詳



《乳牛》1958年



《乳牛》のためのデッサン 1958年頃

## ◆ 宮本三郎記念美術館

### ◆ 宮本三郎（みやもと・さぶろう）について

1905年5月23日に現在の石川県小松市松崎町に生まれ、1935年7月より世田谷区奥沢にアトリエを構えた、昭和を代表する世田谷区ゆかりの洋画家です。

川端画学校で富永勝重、藤島武二、また個人的には安井曾太郎に指導を受け、戦前は二科展を中心に発表を行いながら、雑誌の挿絵や表紙絵の制作でも活躍。戦時中は従軍画家として藤田嗣治、小磯良平らとともにマレー半島、タイ、シンガポールなどに渡り《山下、パーシバル両司令官会見図》（1942年）をはじめ、数々の作戦記録画を制作しました。戦後は、熊谷守一、田村孝之介らと第二紀会を設立。生来の素描力を土台に、さまざまに画風を変えながらも、人物を主たるテーマとして制作、晩年は花と裸婦を主題にした豪華絢爛な絵画世界を構築します。1974年10月13日、腸閉塞による心臓衰弱のため、69歳で他界。



撮影 藤原正 撮影年不詳

### ◆ 宮本三郎記念美術館について

洋画家・宮本三郎（1905-1974）が長きにわたり制作の拠点とした地に、世田谷区が建設した美術館で、2004年4月に世田谷美術館の分館として開館しました。展示室において年2回開催する収蔵品展を通じ、宮本三郎の画業を様々な視点からご紹介する他、館内の講座室では、講演会やワークショップ、コンサートなどを開催しています。

### ◆ 当館では年間を通して講演会やワークショップ、コンサートなどを開催しています。

[参考] 2019年の活動



人ひろばvol.44  
「奥沢・玉川の地域の歴史再発見！第2弾」  
(2019年9月8日撮影)



子どもとおでかけ美術館  
「ふうけいのおはなし会」  
(2019年11月16日撮影)



ニューイヤー・コンサート  
アコルディ弦楽四重奏団  
(2019年1月27日撮影)

### ◆ 交通案内

東急東横線・大井町線「自由が丘」駅下車／徒歩7分

東急大井町線「九品仏」駅下車／徒歩8分

東急目黒線「奥沢」駅下車／徒歩8分

東急バス（渋11）渋谷駅～田園調布駅「奥沢六丁目」下車／徒歩1分

東急バス（園01）千歳船橋～田園調布駅「浄水場前」下車／徒歩10分

※当館の来館者用駐車場は、車椅子の方用スペース1台分のみとなります

### ◆ お問い合わせ先

宮本三郎記念美術館（広報担当）

Email：miyamoto.annex@samuseum.gr.jp

TEL：03-5483-3836 FAX：03-3722-5181

〒158 0083 東京都世田谷区奥沢5 38 13

世田谷美術館分館

**宮本三郎記念美術館**